

新館浴槽の天井は、東京駅と同様、風水などで縁起が良いとされる八角形。興味深いのは、この浴槽全体の設計では壁が七角形、浴槽は六角形なのだが、その真意がわかっていない。

## 変わらない「人」

辰野博士もまた、武雄の歴史を色濃くした二人だと言える。

しかし、そんな輝く人を地方の二都市が導けたのは、宮原社長をはじめ地元住民が並々ならぬ情熱を保持していたからだろう。

だからこそ改めて、武雄の一番の魅力は「人」なのだ、と実感する。

辰野博士と武雄の先人たちが情熱を注いだ朱色の賜物、武雄温泉楼門が今年100年目の節目を迎える。100年前のこの街がきつとそうであったように、市民一人一人が情熱と、夢や希望に溢れる、そんな1年であってほしい。